

栃木県立宇都宮白楊高等学校 農業経営科

農業経営科では、生徒の主体性や創造性を育むため、地域の農家・行政・企業との連携やデュアルシステム制度を取り入れた課題研究に取り組み、専門教育の充実を図っています。

進学先は、国公立大学の農学部、私立大学等の4年制大学、農業大学校、専門学校などと多岐に渡っています。また、就職先は、JAや製造業、サービス業などです。

特徴的な活動

栽培・飼育、農業経営に関する知識と技術により進路実現を目指す

2017年（平成29年）12月26日、JGAP認証をトマトで取得し、その後、ナシとブドウ、玄米、ネギの5品目のJGAP認証を取得し活動を継続しています。

農産物の安全・安心を証明するGAP認証の取得は、これから新しい農業の流れであると同時に、消費者からの信頼を維持するための必要条件となってきていることから、多くの場面で活動を紹介していきたいと思います。また、2022年度に「いちご一會とちぎ国体」が開催されることから、その緑化活動の準備として数種類の草花の試験栽培を行ったり、宇都宮市と連携した市内の緑化ボランティアに参加し、ハンギングバスケットの設置やプランターへの花苗の定植を行い、地域の方々との交流を深めています。

今後も、地域の活性化につながる活動を継続して行くこととします。



農業学習や農村文化の保存活動を通して地域貢献できる生徒の育成を目指す

毒物劇物取扱者、農業技術検定2級、危険物取扱者などの資格取得を目指し、専門教育の充実を図っています。また、地元で生産されたユリやバラを活用した花育活動や、JRA未来の畜産女子育成プロジェクト「ニュージーランド酪農研修」への参加と畜産の魅力発信、酒米栽培を通じた地域酒蔵との連携、地元の貴重な農産物（エソシマモチや新里ねぎ）を後世に継承する活動、鳥獣管理士を招いた野生鳥獣による農作物被害とその対策講座など、地域が抱える課題解決にも広く取り組んでいます。



栃木県立宇都宮白楊高等学校 生物工学科

バイオテクノロジーを学ぼう！

生物工学科では、植物バイオテクノロジー・動物バイオテクノロジーや微生物の利用などについて学習しています。

バイオテクノロジーは、私たちの生活の身近なところで役に立っている技術です。

学習内容

- 植 物 分野・・・鉢花の栽培、ラン類の組織培養
栄養繁殖系植物の組織培養
- 動 物 分野・・・マウスの飼養管理、体外受精実習
- 微生物 分野・・・キノコの栽培、クリーンベンチでの無菌操作



「絶滅危惧種」保全活動が表彰されました

鬼怒川の河川敷には、川と共生する貴重な動植物が生息し保護活動も盛んです。絶滅危惧種である「カワノギク」や「シルビアシジミ（貴重な蝶）」を守るため、鬼怒川河川敷の環境を保全する活動等に取り組んでいます。具体的には、カワノギクの種子の播種と特定外来植物の除草、シルビアシジミの食草で産卵場所であるミヤコグサを組織培養で増やす活動を行っています。

今年度、これらの活動が認められ国土交通省より感謝状をいただきました。



栃木県立宇都宮白楊高等学校 食品科学科

幅広い視点から「食品」を学ぶことができる！

食品科学科では、食品の製造、食品成分の働きや基礎実験、微生物の利用、流通に関して学び、普段の食生活や食品業界でも活かせる知識と技術を学習しています。



「食育の推進活動と交流教育」

本校食品科学科は、「宮っこ食育応援団」に登録し、近隣の小学校、特別支援学校、地域コミュニティなどにおいて、食育についての出前授業を行っています。栃木県産の米粉を使用した蒸しパン、クレープ、アイスクリーム等の製造実習を通して、異校種、異年齢間の交流を深めています。



「栃の実」を魅力ある食材として復活させたい！

栃木県のシンボルであり、栄養食品としての可能性を秘めた「栃の実」プロジェクトを2016年度（平成28年度）に立ち上げました。

初年度は、「重曹」を使用したアク抜き方法の確立。

平成29年度は、栃の実のパウダー化、染色、普及活動用のパンフレット作成。

平成30年度は、栃の実クッキーの商品開発・販売、栃の実七味の開発など。

令和元年度から、栃の実石けんの研究を開始。

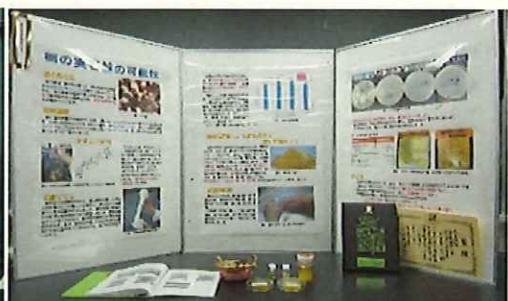
令和2年度は、商品化に向けてさらなる研究を行っています。

今後は、企業と連携した加工品の開発、消費拡大・普及活動、栄養成分の調査を中心に活動を進めていくこととしています。

栃の実クッキー
(平成30年9月)



第2回とちぎハイスクールフェスティバルで、「アイデア賞」を受賞！



学生科学賞栃木展覧会
最優秀賞
「栃の実石鹼の可能性」
3年とちのみガールズ
(令和元年度)



文武両道の精神で資格取得と進路実現

農業工学科では、学科の約8割の生徒が運動部に所属し毎日練習に励んでいます。また、測量士補をはじめ、2級土木施工管理技士、危険物取扱者、車両系建設機械やフォークリフトといった建設現場で即戦力となる資格やビジネス文書実務検定など、様々な資格取得にチャレンジし多くの合格者を出しています。

たくさんの生徒が文武両道の精神を持って学校生活を送り、宇都宮大学農学部、東京農業大学地域環境科学部、東海大学工学部などをはじめとする4年制大学や専門学校への進学、農林水産省、宮内庁御料牧場、栃木県庁、宇都宮市役所、下野市役所、消防士、警察官等の公務員合格、ファナック（株）、富士重工業（株）、（株）クボタ、日産自動車（株）、花王（株）など一般企業への就職等、様々な希望進路を実現しています。

「棚田の再生」をはじめとする地域環境再生の取り組み！



2015年（平成27年）から、宇都宮市田原地区にある里山（管理者：（株）農人たち）の再生活動に取り組んでいます。専門科目で学んだ測量や施工の知識・技術を活かし、荒地になっていた棚田をはじめ、里山全体の環境整備を行い、現在は、この棚田で稻や野菜の栽培などを行っています。この間、水田を再生するために木の伐採、用水路の設計・施工、畦畔（けいはん：耕地間の境）造りなどを行いました。また、暗渠（あんきょ：地下に埋設した水路）をつくり、土壤改良についても学んでいます。

植樹造林整備活動で森林再生に取り組む！

宇都宮市役所や宇都宮市森林組合、グリーントラウトうつのみやの皆様に御協力をいただき、キャリア形成支援事業の一環として、鶴田沼緑地において、樹林地の再生についての学習と林業体験を実施し、生徒全員がチェーンソーによる丸太切りを体験させていただきました。

樹木の伐倒と枝下や高所における特殊伐採の実演では、森林組合の方の熟練された技術の凄さに参加者全員が圧倒されました。今回の授業は、樹林地再生や林業の重要性を理解する上で、大変貴重な機会となりました。

地域との連携で人づくり！

農業工学科では、学校で学んだ知識や技術を基に、生徒一人一人が地域での各種活動に積極的に参加しています。その中で主体的に活動することで、様々な経験をし、幅広い年代の方々とのコミュニケーションを通して大きく成長しています。

そして、「卒業後は地方公務員として、地域に貢献できる仕事がしたい。」と考える生徒が増え、毎年公務員試験合格者を輩出しています。これからも、地域の担い手やリーダーとなり得る人材の育成に向けて、地域の皆さんとともに諸活動に取り組んで行きたいと考えています。



目指せ！測量士補試験 全員合格！

学科の大きな目標として「測量士補全員合格」を掲げ、日々学習に励んでいます。結果、毎年多くの生徒が試験に合格しています。

【年度別合格者数】

平成29年度	14人
平成30年度	27人
令和元年度	23人
令和2年度	11人

